

「子どもの貧困」についての報道が増えています。「子どもと貧困」なら良いのですが、「子どもの貧困」の「の」に私は引っかけています。

「子どもの」とは言っても結局は大人の貧困の話だけではないか？ と危惧していましたが、やはりそうなっています。

例えば子ども食堂の話をよく聞きます。基本的に大変良いことだし私も寄付先を探しています。ただ、そこがリタイア世代の集いの場所になったり、地域づくりに利用されたりしている所は、はっきりいって、困っている子どものために全然なっています。

子どもそっちのけの貧困

子どもを中心に置き、地域のつながりを求める運動の多くにも、疑問を感じます。

関連することですが、昨年に生まれた赤ちゃんは初めて100万人を切り、97万人台です。1年で3%近く低下するというのはただ事ではありません。

少子化というのは、若い世代から今の社会に対しての明確な「NO」のサインでしょう。その理由は、子育てを終えた「大人世代」が、若い世代や子どもを結果的にでも利

小児科医

駒木 智

用しているからだと思います。こういう時に、地域社会の絆を深めようとし、子どもさんを利用するような状況は本当にいけないことです。

そのことに若い世代と子どもはとても敏感で、こういう社会に子孫を残したいと思わないし、子どもも希望を持っていないのではないのでしょうか。

「大人世代」は、大人のためにもなるような場ではなく、純粹に次世代の子どものためになる場を提供しませんか。

一筆

